

株式会社コンテック

2010年3月期 第2四半期決算説明会

2009年11月24日



1. コンテックグループの状況
2. 2010年3月期 第2四半期決算 経営成績の概要
3. 2010年3月期 通期業績予想
4. 新中期経営計画

.....

添付資料 会社紹介

1. コンテックグループの状況～1



2010年3月期 第2四半期決算 連結売上高 4,857百万円
(2009年3月期 第2四半期決算 連結売上高 8,630百万円)

社 名 株式会社コンテック
設 立 1975年 4月 1日
本社所在地 大阪市西淀川区姫里3-9-31
資本金 11億1,960万円(2009年9月30日現在)
(発行済株式数 330万株)
主要株主 (株)ダイフク 65.60%(2009年9月30日現在)
従業員数 402名(連結) 234名(単体) (2009年9月30日現在)



■国内事業所

- 東部支店 東京都江東区亀戸2-25-14 立花アネックスビル2F
- 西部支店 大阪市西淀川区姫里3-9-31
- 国内営業所 北関東／立川／神奈川／静岡／名古屋／京滋／広島／九州

■国内子会社

株式会社コンテック・イーエムエス (生産)

■海外子会社

CONTEC MICROELECTRONICS U.S.A. INC. (販売)
北京康泰克電子技術有限公司 (開発) / 上海分公司 (開発)
台湾康泰克股份有限公司 (開発・生産)
康泰克科技股份有限公司 (販売)
康泰克(上海)信息科技有限公司 (販売)

● 2010年3月期 基本方針

- ① 売上を増大させるため、コンテックグループが持つ販売から技術・生産・サービスまでの全てにおいて、国内外の「構造改革」を継続し、成果を出す。
- ② 体質を強化するため、間接経費の大幅削減を実行する。
- ③ 内部統制システムの実運用で、その成果を出す。

● 2010年3月期 第2四半期の経営成績

当社グループでは、昨年より従来の代理店販売に加えて、顧客密着型の営業を積極的に推進し、それに対応した商品開発を行った。

しかしながら、製造業における生産設備への投資が大幅に減少している影響を受け、売上高が大きく減少した。

2. 2010年3月期 第2四半期決算 経営成績の概要～1



連結損益計算書 増減

(単位：百万円)

	2009年3月期 第2四半期累計	2010年3月期 第2四半期累計	増 減
売 上 高	8,630	4,857	△ 3,773
売 上 総 利 益	1,782	879	△ 903
営 業 損 失	△ 125	△ 595	△ 470
経 常 損 失	△ 140	△ 629	△ 489
四 半 期 純 損 失	△ 135	△ 414	△ 279

【総括】

景気後退に伴い大幅に売上高が減少。販管費の削減に努めたが、売上総利益の減少が大きく、第2四半期は414百万円の損失となった。

2. 2010年3月期 第2四半期決算 経営成績の概要～2

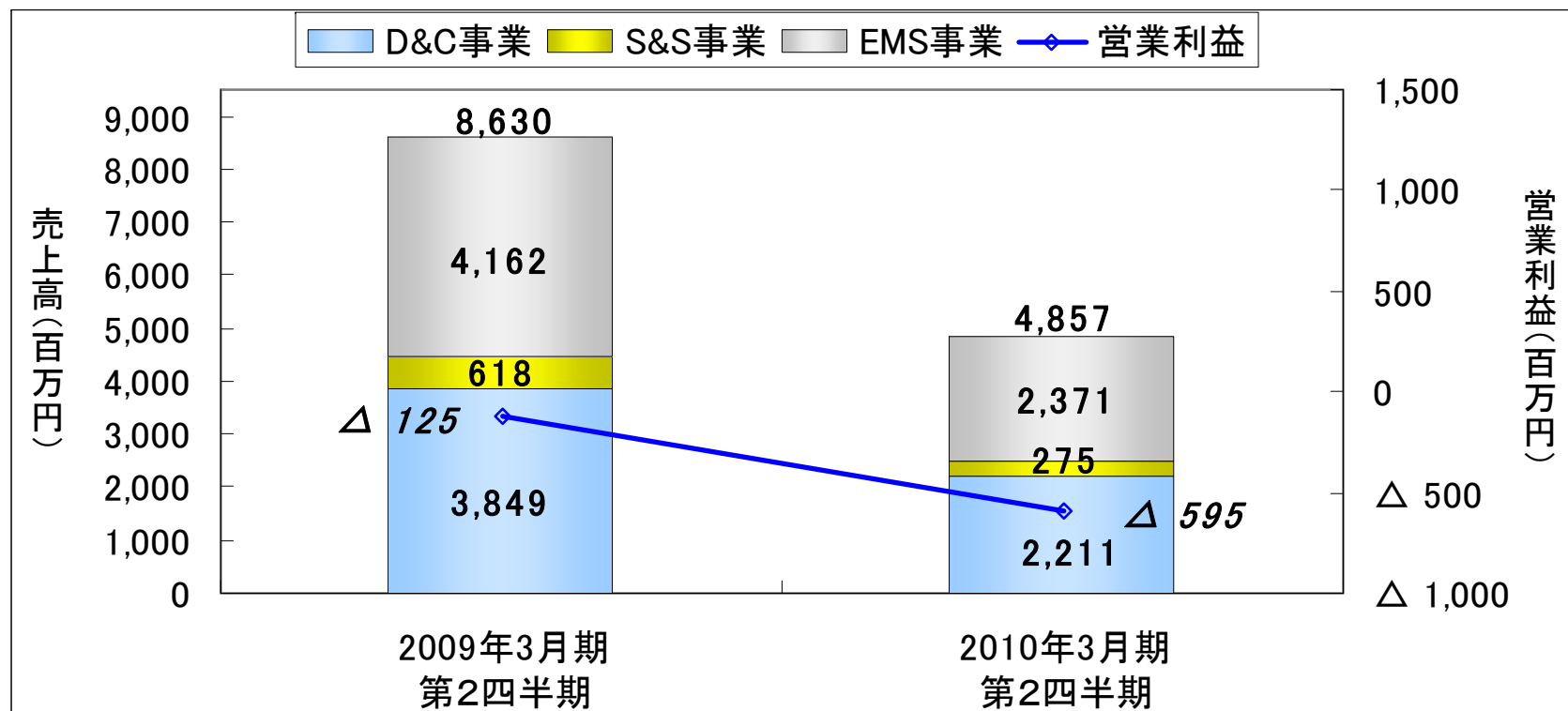


当社グループの事業部門別売上高

(単位:百万円)

事業部門	2009年3月期 第2四半期		2010年3月期 第2四半期		前年 同期比(%)
	金額	構成比率	金額	構成比率	
デバイス&コンポーネント(D&C)事業部門	3,849	44.6%	2,211	45.5%	△42.6
ソリューション&サービス(S&S)事業部門	618	7.2%	275	5.7%	△55.5
EMS事業部門	4,162	48.2%	2,371	48.8%	△43.0
合計	8,630	100.0%	4,857	100.0%	△43.7

【連結】



デバイス&コンポーネント事業部門

お客様の要求に柔軟に対応できる小型・省電力の産業用パソコン、検査計測システム用のパソコン及び高速の無線LAN規格(IEEE802.11n)に対応した商品等を市場に投入した。また、ロイヤルカスタマーの獲得と共に業界深耕を目指し、成長が期待されるデジタルサイネージ(電子看板)、公共交通機関、医療機器、店舗設備等の業界に向けて営業活動を強化した。

しかしながら、前年同期と比べて、製造業における生産設備への投資が大幅に減少している影響を受け、売上高は2,211百万円(前年同期比42.6%減)となった。

ソリューション&サービス事業部門

成長の期待される環境ビジネスに対して太陽光発電データ計測／表示システムを中心に、積極的な販売活動を展開した。

しかしながら、自動車関連業界の設備投資減少の影響を受け、前年同期と比べて、主力の同業界向けシステムの販売が低調となったため、売上高は275百万円(前年同期比55.5%減)となった。

EMS(Electronic Manufacturing Service)事業部門

EMS事業拡大のため新規顧客開拓を進めており、少しずつ顧客数が増加している。

しかしながら、前年同期と比べて、主力である株式会社ダイフクの物流システム部門からの受注が減少したため、売上高は2,371百万円(前年同期比43.0%減)となった。

2. 2010年3月期 第2四半期決算 経営成績の概要～4



貸借対照表（連結） 前期末比

（単位：百万円）

科 目	2009年 3月末	2009年 9月末	増 減	科 目	2009年 3月末	2009年 9月末	増 減
資 産 の 部	12,499	12,137	△ 362	負 債 の 部	7,243	7,320	77
流 動 資 産	8,744	8,752	8	流 動 負 債	5,983	6,113	130
現 金 及 び 預 金	2,245	3,547	1,302	仕 入 債 務	2,038	1,729	△ 309
売 上 債 権	2,682	2,006	△ 676	短 期 借 入 金	3,208	4,050	842
棚 卸 資 産	3,561	3,069	△ 492	その他の流動負債	737	334	△ 403
その他の流動資産	299	133	△ 166	固 定 負 債	1,260	1,207	△ 53
貸 倒 引 当 金	△ 43	△ 3	40	長 期 借 入 金	800	800	0
固 定 資 産	3,755	3,385	△ 370	そ の 他 固 定 負 債	460	407	△ 53
有形固定資産	2,727	2,535	△ 192	純資産の部	5,256	4,817	△ 439
無形固定資産	365	313	△ 52	株主資本	5,417	4,930	△ 487
投資その他の資産	663	537	△ 126	評価・換算差額等	△ 161	△ 138	23
				少数株主持分	0	25	25
合 計	12,499	12,137	△ 362	合 計	12,499	12,137	△ 362

3. 2010年3月期 通期業績予想～1



2010年3月期予想

(単位:百万円)

	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(参考) 前期実績 (2009年3月期)
売上高	10,800	10,800	－	－	16,196
営業利益 又は損失	50	△530	△580	－	△534
経常利益 又は損失	20	△600	△620	－	△547
当期純利益 又は損失	50	△420	△470	－	△1,127
1株当たり当期 純利益又は損失	15.15	△127.27	－	－	△341.68

【修正の理由】

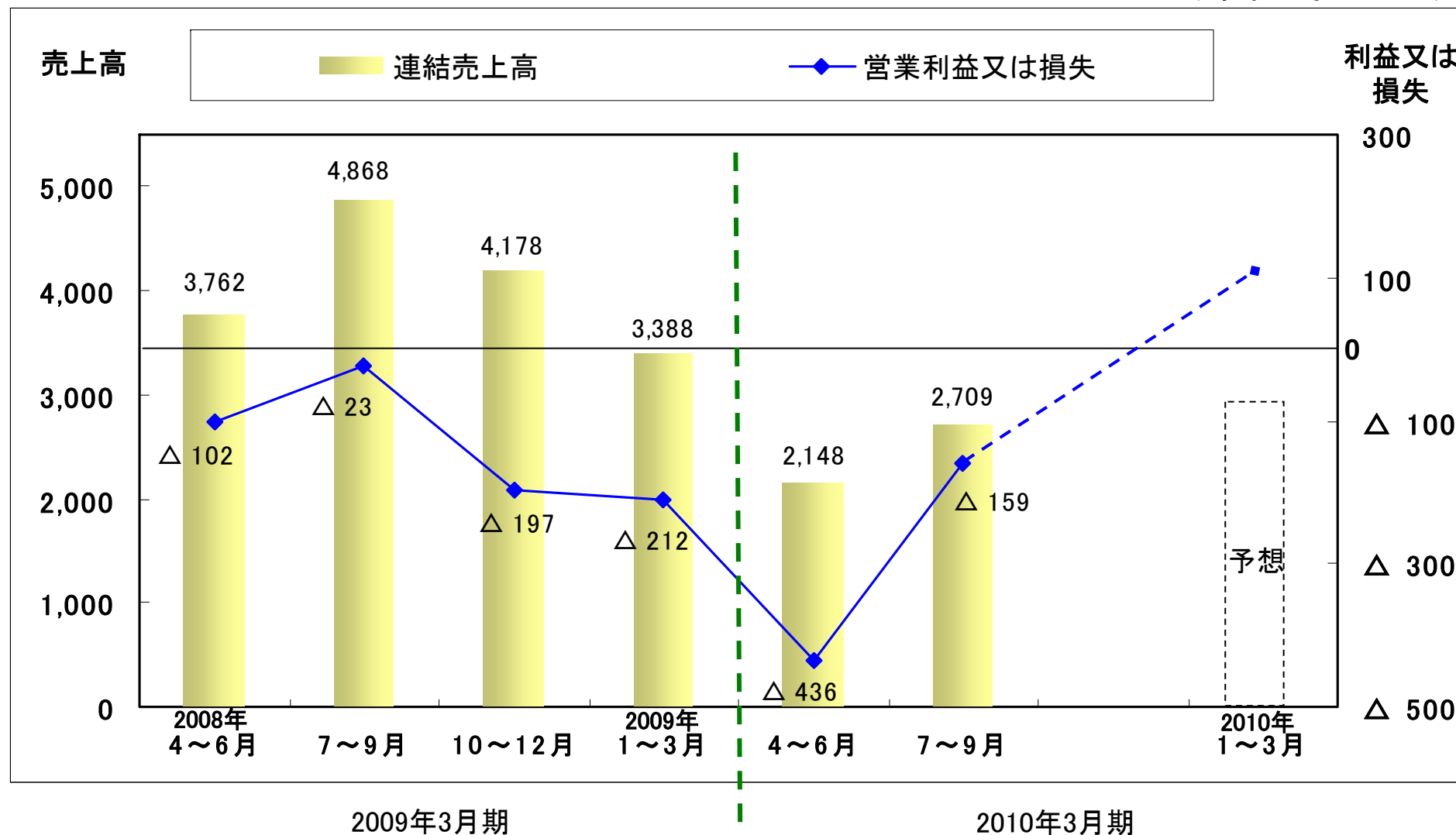
期初計画の予想に比べて、市場での価格競争が厳しくなっており、第2四半期の業績は厳しいものとなった。これを踏まえ、通期の業績予想を修正した。

3. 2010年3月期 通期業績予想～2



四半期別業績推移

(単位:百万円)



**長期ビジョンとして5年後に売上高300億円を見据えて、
新たな中期経営計画(3ヵ年計画)を策定した。**

事業環境の見通し

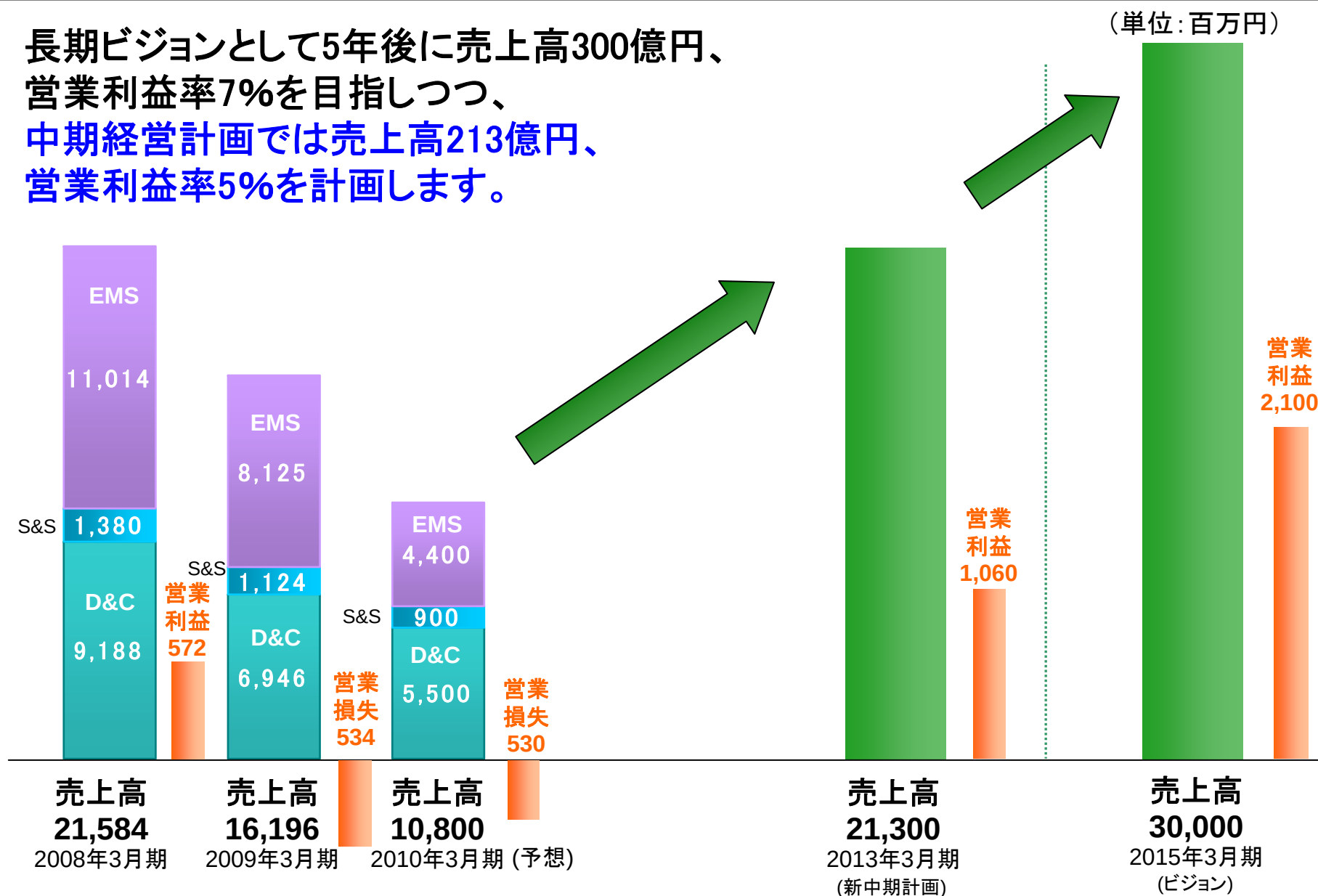
- ・日本の電子機器業界は、輸出依存型の国内製造業が輸出激減により生産設備の余剰が顕著で、設備投資は停滞しており、FA市場の回復には時間がかかる。
- ・一方、非FA市場における設備投資は堅調で、市場の拡大・ビジネスチャンスは更に増大する。
- ・環境ビジネスは、新政権が温室効果ガスの大幅削減目標を発表したこともあり、太陽光発電関連等への投資が拡大すると予測する。
- ・海外におけるFA市場は、米国・欧州で日本と同様の市場推移となるが、中国では引き続き拡大すると予測する。

基本方針

- ◇ 営業体制の変革で成長分野を深耕
- ◇ 海外市場の売上拡大
- ◇ 技術・開発体制の強化
- ◇ 生産体制の再構築による生産性向上

4. 新中期経営計画 数値目標

長期ビジョンとして5年後に売上高300億円、
営業利益率7%を目指しつつ、
中期経営計画では売上高213億円、
営業利益率5%を計画します。



D & C事業の市場規模(約4, 000億円)

エリア別

ヨーロッパ地域 1, 000億円

日本 700億円

アジア地域 1, 000億円

アメリカ地域 1, 300億円

機種別

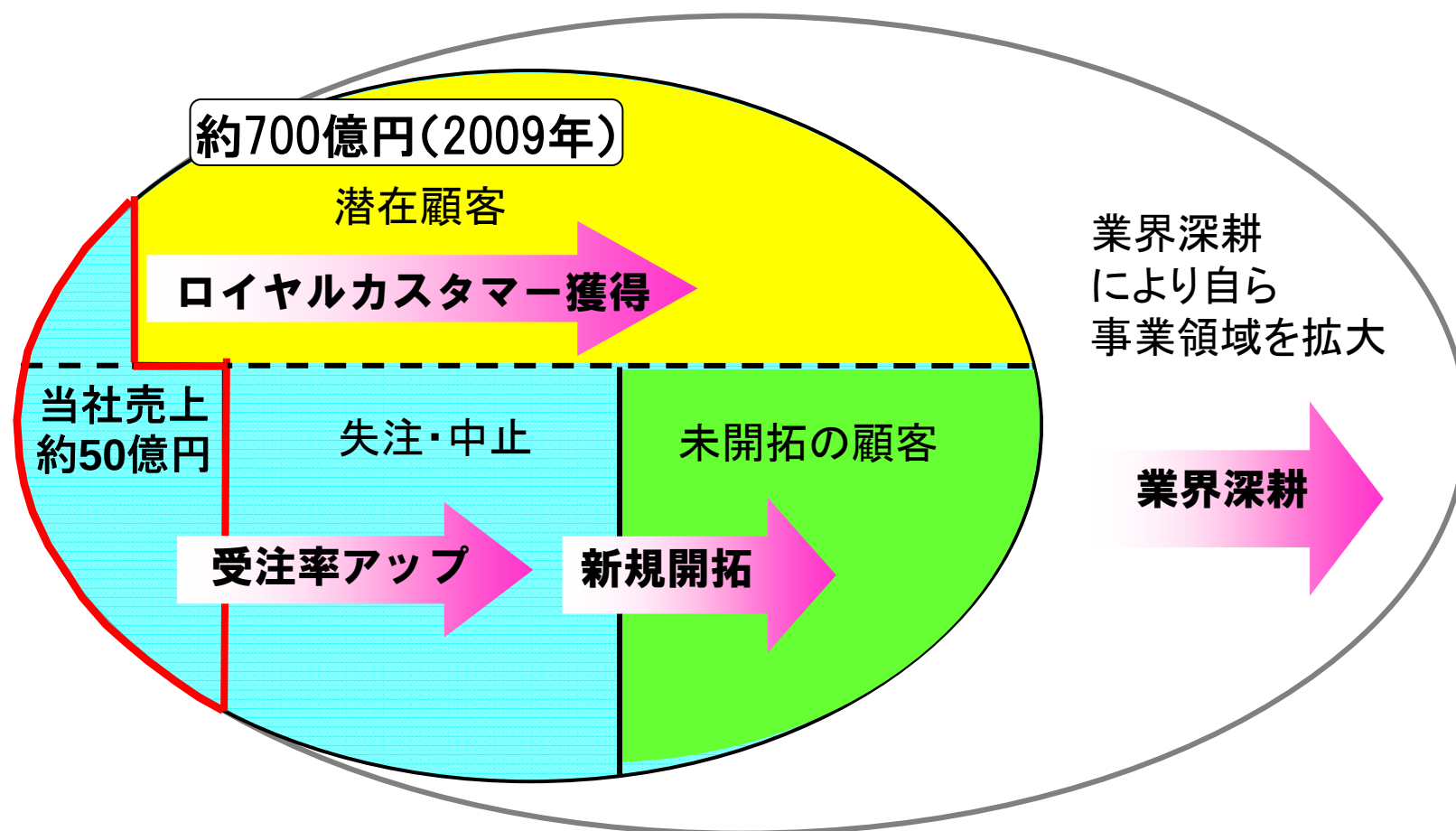
拡張ボード系 400億円

ネットワーク系 500億円

産業用パソコン系 3, 100億円

ロイヤルカスタマーの獲得と共に業界深耕を図る。

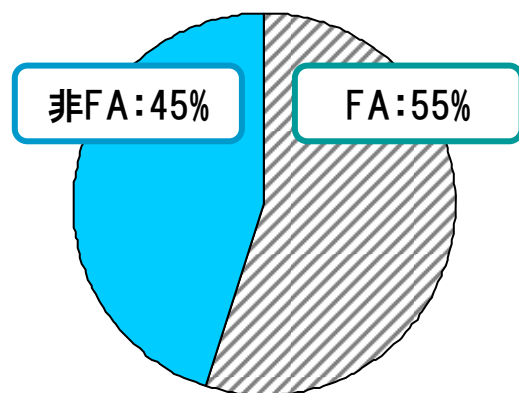
<国内電子機器市場規模>



回復の遅れるFA市場から非FA市場へシフトする。

<国内市場>

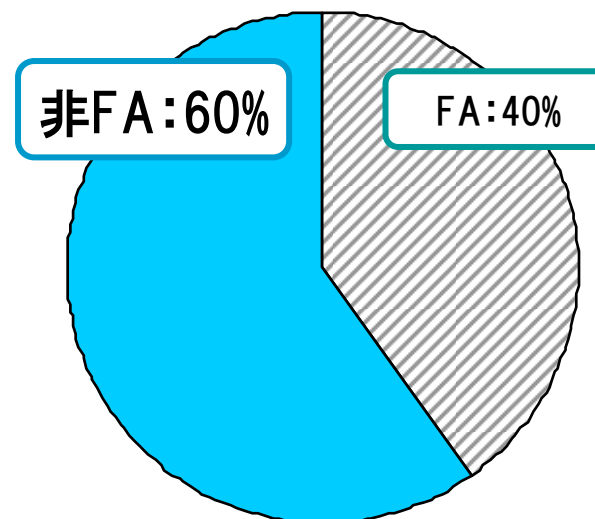
売上
約50億円



2010年3月期

(予想)

売上
約88億円

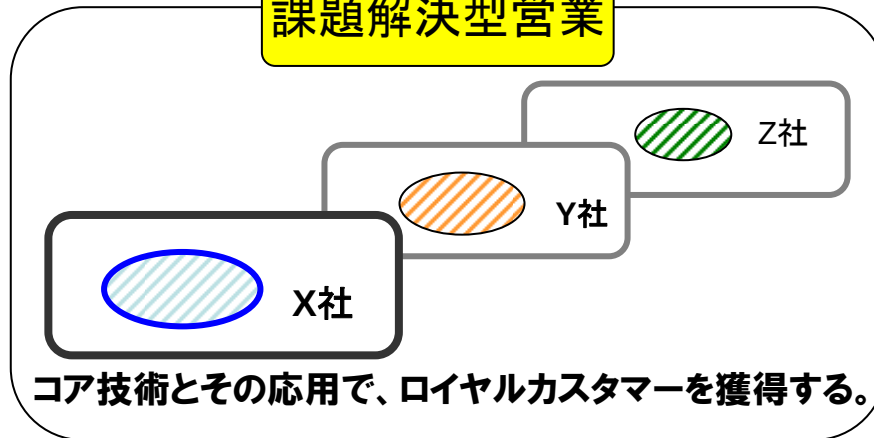


2013年3月期

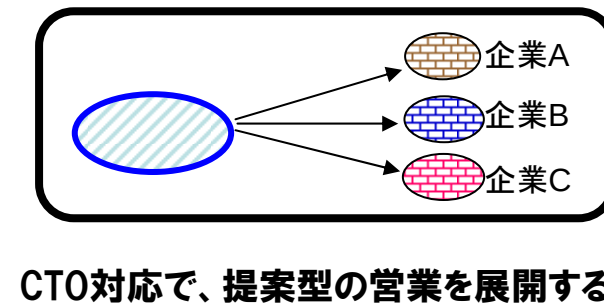
(計画)

営業体制の変革で成長分野を深耕する。

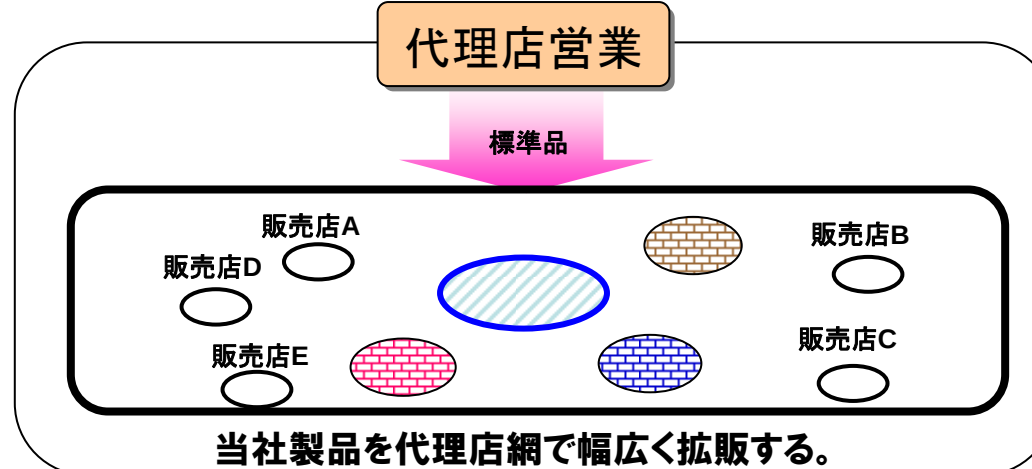
課題解決型営業



提案型営業



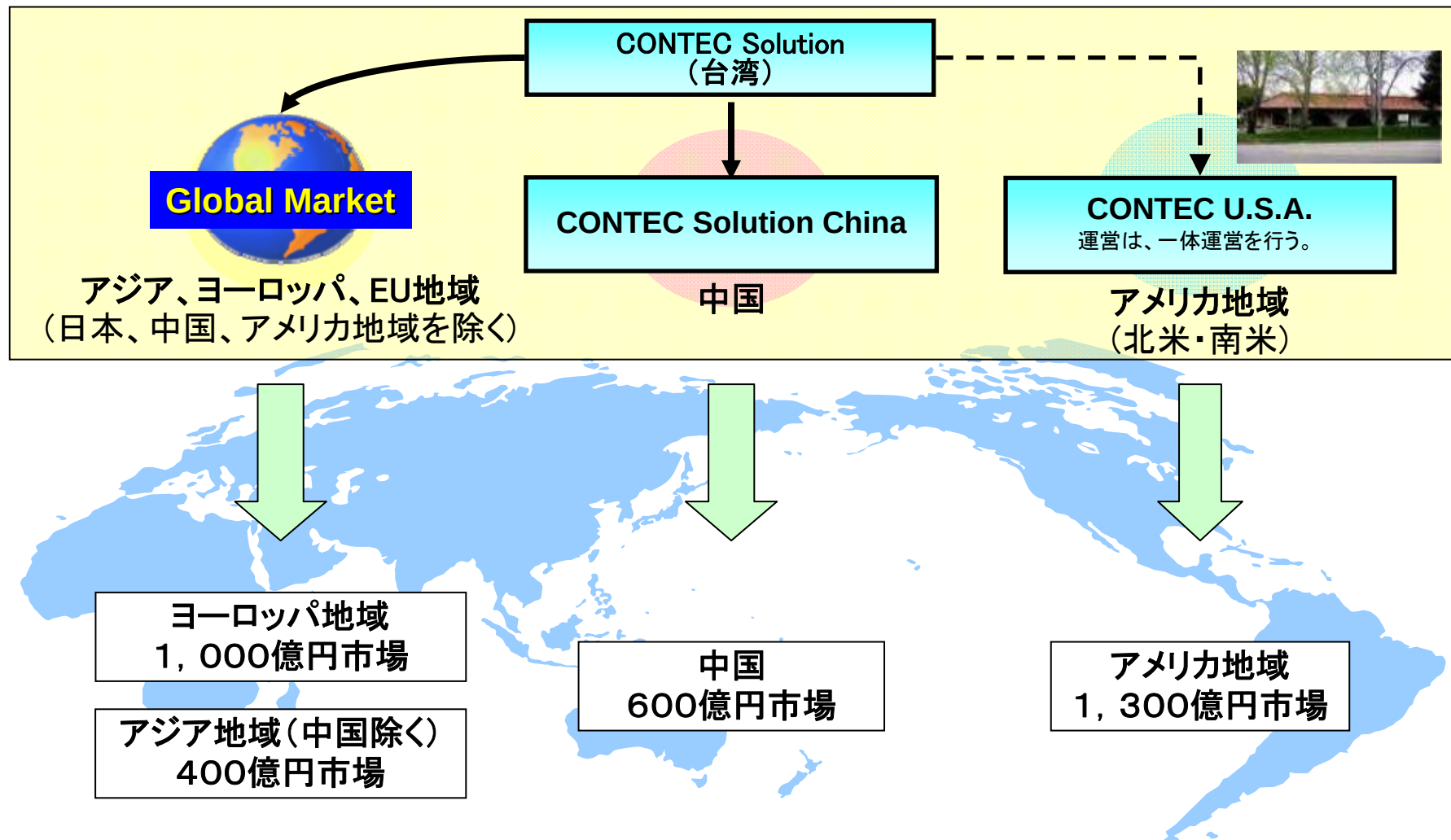
代理店営業



4. 新中期経営計画 D&C事業 ～5(海外市場の拡大)



海外販売会社「CONTEC Solution」を中心として、海外市場の売上拡大を目指す。



技術・開発体制の強化

1. 日本/台湾/中国の各拠点に加え、パートナーネットワークの構築で、技術・開発体制の強化を図る。
2. cTESTとUSB製品の開発に加え、PCベースの高速・小型コントローラ、省配線機器の研究・開発に着手する。
3. CPUコアの特長とソフトウェア技術を活かしたカスタム対応と協業先との共同開発を推進する。
4. 最新の無線通信技術と画像処理技術を活用し、市場ニーズに応じた商品を開発する。
5. ソフトウェア技術によりコンテック独自の競争優位性を創造し、垂直統合型ビジネスを拡大する。
6. パソコン応用技術を核に、新たなビジネスを創造する。

環境ビジネスの拡大に対応するため、太陽光発電関連を中心とした環境ソリューションビジネスの拡販を目指す。

1. ソリューション系



太陽光発電データ計測・表示システム

2. システム系



生産管理システム

**生産体制の再構築で経営基盤を強化し、
生産のコストダウンを目指す。**

1. 生産拠点の見直しで、生産性を向上させる。
2. 協業先への生産委託で、産業用パソコンのコストダウンを実現する。

グループ以外のEMSビジネスを拡大する。

1. 電子機器生産の経験とノウハウを利用したビジネスを展開する。
2. 設計受託から生産までのEMS事業体制を確立する。
3. EMSビジネスのターゲット市場へ、重点的に営業活動を行う。

4. 新中期経営計画 新規事業の開拓

「ワイヤレス・パワー＆コミュニケーション(電力と情報のワイヤレス供給)」
をキーワードに省エネ関連新規事業を開拓する。



この資料には、当社の現在の計画や業績の見通しなどが含まれております。それらの計画や見通しなどは、現在当社が入手可能な情報を元に計画、予測したものです。実際の業績などは、様々な条件の変化により異なった結果となることがあり、この資料は、それら計画や見通しなどの実現を保証したものではありません。

株式会社コンテック

会社説明 資料

2009年11月24日



目 次

I 会社概要

II コンテックグループの紹介

1. 事業と製品の紹介
2. 販売体制
3. 開発・生産体制
4. 品質・環境・情報への取組み

I. <会社概要>

社 名	株式会社コンテック (CONTEC Co.,Ltd.)
設 立	1975年4月1日
本社所在地	大阪市西淀川区姫里3-9-31
代 表 者	代表取締役社長 漆崎 榮二郎
資 本 金	11億1,960万円(2009年9月30日現在)
主 要 株 主	(株)ダイフク 65.60% (2009年9月30日現在)
売 上 高	76.6億円(2009年3月期単体実績) 161.9億円(2009年3月期連結実績)
従 業 員 数	402名(連結) 234名(単体) (2009年9月30日現在)



■国内事業所

- 東部支店 東京都江東区亀戸2-25-14 立花アネックスビル2F
- 西部支店 大阪市西淀川区姫里3-9-31
- 国内営業所 北関東／立川／神奈川／静岡／名古屋／京滋／広島／九州

■国内子会社

株式会社コンテック・イーエムエス

■海外子会社

CONTEC MICROELECTRONICS U.S.A. INC.

北京康泰克電子技術有限公司

台湾康泰克股份有限公司

康泰克科技股份有限公司 (CONTEC Solution Co., Ltd.)

康泰克(上海)信息科技有限公司 (CONTEC Solution China Corporation)

I. <会社概要>コンテックとは



★FA分野に、マイコンに代わるパソコン市場を創造

- 1975年、親会社・(株)ダイフクから制御システム部門の一部が企業内ベンチャーとして独立。
- FA・LA分野でのマイコン応用から、パソコン活用を提唱し市場を創造。
- 1982年、世界に先駆けて「計測制御用インターフェイスボード」を開発。

★拡張ボードから産業用パソコンへ、更に無線LANへ

- パソコン機能をボードサイズに凝縮したボードパソコンやFA仕様の産業用パソコンを開発。
- 無線LANの産業用途にいち早く着目、産業向けに適した無線LAN機器を独自開発・生産。

★独自技術による開発、強固な営業基盤

- 親会社など外部に依存しない独自の技術力による商品開発。
- 親会社とは違った事業分野での強固な営業基盤。

★ファブレスからファブリックへの転換

- 2004年、(株)ダイフクの電子制御生産部門を当社の生産事業に統合、生産子会社(株)コンテック・イーエムエスを設立。
- 本格的な生産機能を持ち、生産量の拡大・設備の拡張によるコストダウンを実現。

★開発と開拓とコストダウンによる成長

- ネットワーク社会・ユビキタス社会・ボーダレス社会への進展に伴う事業分野の拡大とビジネスチャンスの飛躍的増大。
- 生・販・技のグローバル展開の加速化による事業基盤の更なる強化。

※FA:ファクトリー・オートメーション、LA:ラボラトリー・オートメーション

I. <会社概要> 沿革



1975年 4月	株式会社コンテック設立、資本金500万円
1979年 4月	東京事務所(現 東部事業所)を開設
1981年 7月	中国との技術交流スタート
1982年 9月	NEC製パソコン用の インターフェイスボード を開発、販売開始
1986年 6月	米国サンタ・クララに「 CONTEC MICROELECTRONICS U.S.A. INC. 」を設立
1987年10月	中国北京市に「 北京康泰克電子技術有限公司 」を設立
1988年 5月	NEC 製パソコンPC-98バス互換 ボードコンピュータ を開発、販売開始
1991年 6月	資本金を2億円に増資
1992年 4月	名古屋市に中部事業所を設置
1993年 4月	工業用パソコン「IPCシリーズ」 を開発、販売開始
1995年 4月	ISO9001認証取得
1996年 6月	資本金を4億5,000万円に増資
1999年 3月	無線LAN「FX-DS20」 を開発、販売開始
2002年 6月	ISO14001認証取得
2004年10月	日本における生産子会社として「 株式会社コンテック・イーエムエス 」を設立
2006年 1月	台湾台北市に「 台湾康泰克股份有限公司 」を設立
2007年 3月	東京証券取引所市場第二部に上場、資本金11億1960万円に増資
2009年 5月	台湾に、海外販売目的でARBOR 社との合併会社「 康泰克科技股份有限公司 」を設立
2009年 9月	中国上海市に、販売子会社「 康泰克(上海)信息科技有限公司 」を設立

Ⅱ. コンテックグループの紹介

1. 事業と製品の紹介
2. 販売体制
3. 開発・生産体制
4. 品質・環境・情報への取組み

①デバイス&コンポーネント事業（D&C事業）

あらゆる自動化分野において必要な各種電子機器商品を提供しています。

【拡張ボード系
機器】

【産業用パソコン系機器】
【産業用パソコン】【ボードパソコン】【セットアップパソコン】

【ネットワーク系
機器】

【システム
機器】

②ソリューション&サービス事業（S&S事業）

デバイス&コンポーネント商品をベースに、ハード・ソフトを結合した最適システム提供しています。

【システム系】

【ソリューション系】

③EMS事業（Electronic Manufacturing Service事業）

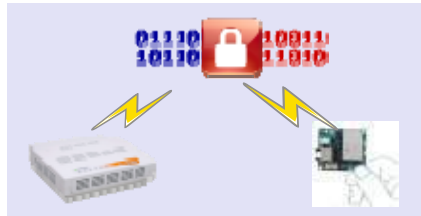
主に(株)ダイフク向けの制御盤・制御モジュール、ワイヤハーネスの受託生産を行っています。

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



無線化技術

自社開発による独自の
暗号化技術、センサーネットワーク



産業用PC技術

省電力によりCO₂削減、
省スペースにより装置の小型化が可能



拡張ボード技術

あらゆる信号入出力に応える
400種を超える品揃え



あらゆる環境に対応できる自社技術で
お客様の課題解決を支援します

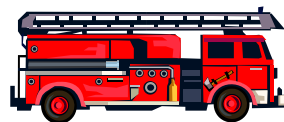
メンテナンスフリー

ファンなどの寿命部品を極力排除した
設計によりメンテナンスフリーを実現



不安定電源対策

エンジン始動時など
電圧変動しても安定稼働できる



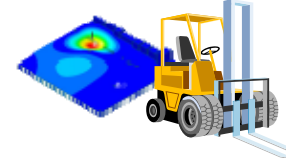
温度対策技術

屋外の使用に耐え
-20~60℃で安定稼働できる



振動対策技術

三次元で振動を解析し
共振を防止



ソフトウェア技術

BIOSからアプリケーションまで
幅広い開発を支援



専任部隊による業界ごとの深耕により、
顧客視点に立ったCTO及びODM受託を推進しています。

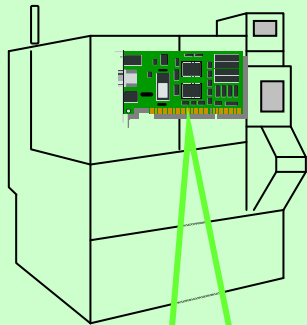
CTO (Configure To Order):注文仕様生産
ODM (Original Design Manufacturing):相手先ブランドによる設計・製造

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



拡張ボード系

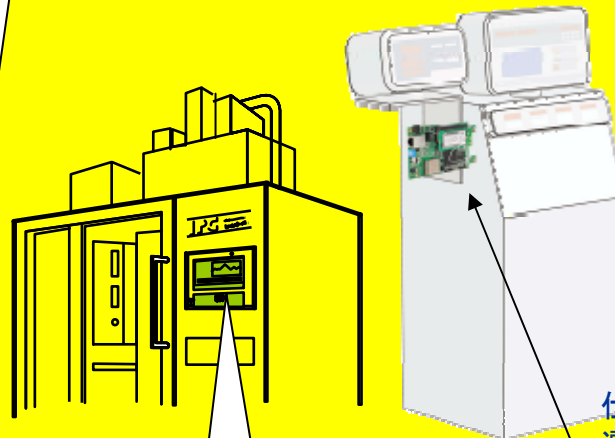
拡張ボード系組み込み事例
ex. 半導体製造装置



アナログ入出力ボード、
デジタル入出力ボード、
モーションコントロール、
画像処理ボード等を
装置に組込

産業用 パソコン系

産業用パソコン系組み込み事例
ex. 券売機、保険受付端末、
KIOSK端末 等



仕様により
選択



パネルコンピュータ



ボックスコンピュータ

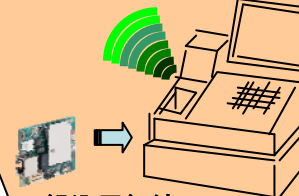


ボードパソコン

ネットワーク系 (無線LAN等)

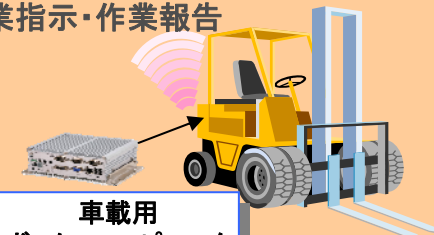
無線LAN組み込み事例
ex. フォークリフト、
無人搬送車 等

無線LAN
端末に無線LAN基板
組み込みの例



組込用無線LAN
基板

無線LAN
フォークリフト
搭載事例
作業指示・作業報告



車載用
ボックスコンピュータ

システム 機器

アプリケーション
システム ex.. KIOSK

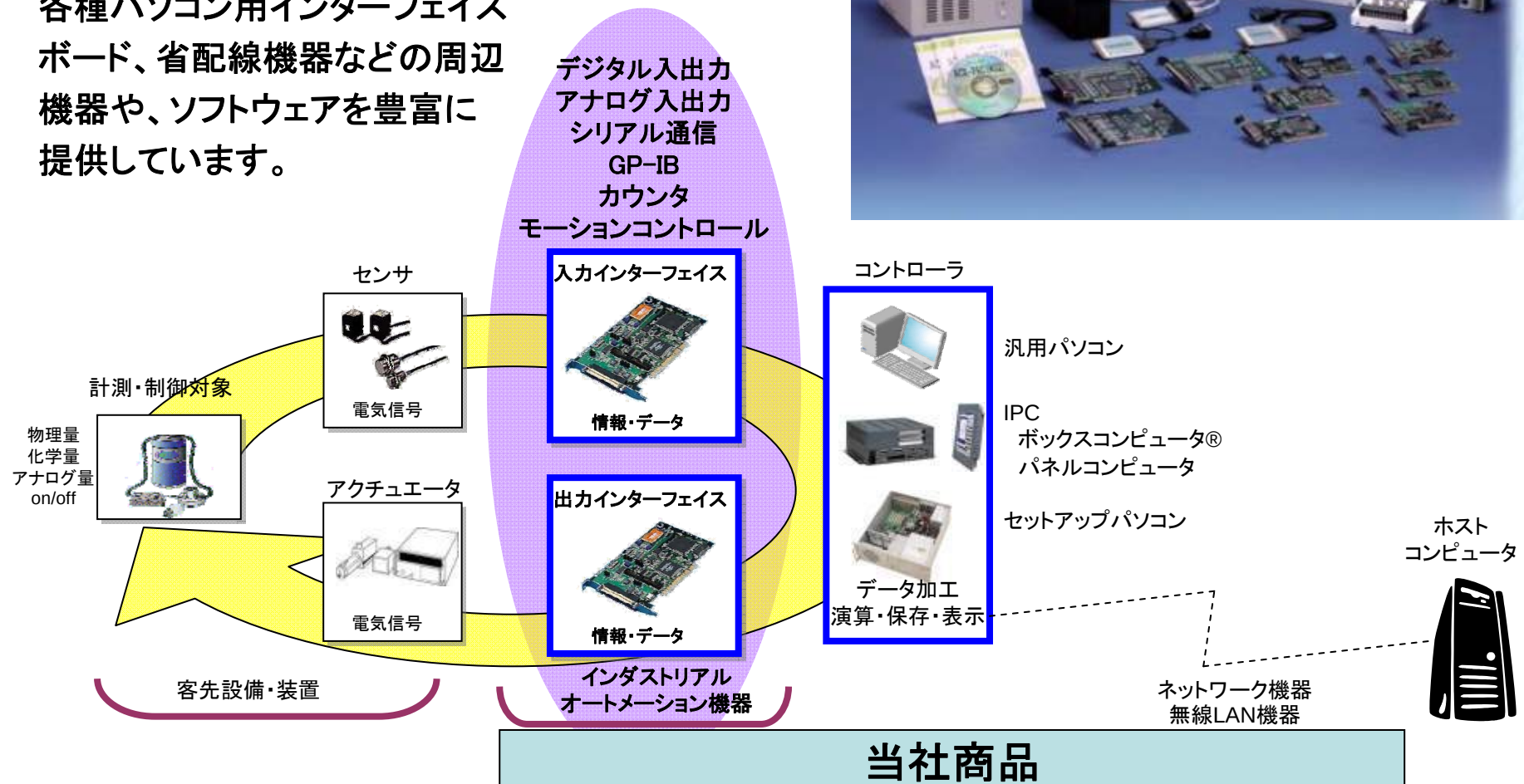


①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 a)拡張ボード系

手軽でローコストなあらゆる
オートメーション構築を可能にする
各種パソコン用インターフェイス
ボード、省配線機器などの周辺
機器や、ソフトウェアを豊富に
提供しています。



①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 a)拡張ボード系

パソコン活用の計測・制御機器や周辺装置でトップシェア(国内30%)

検査計測システム向け製品



cTEST(シーテスト)とは、検査計測システム向け製品とソリューション展開の新たなブランド名です。同分野に特化した製品展開を開始するとともに、お客様の課題解決パートナーとしての営業活動をより一層強化します。

【コントローラ】

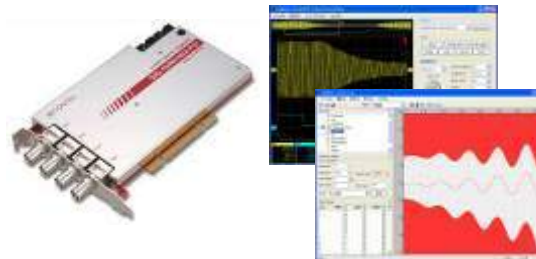
CX-100n



検査計測システムのコスト削減
計測制御デバイスを標準装備

【計測制御デバイス】

DIG-100M1002-PCI



被検物を自動的に合否判定
100MHz 2チャンネル同時サンプリング

【開発支援ソフトウェア】

cTEST Studio Basic

A	B	C	D	E	F	G	H
1	機能	コネクタ	シリアル番号	パラメータ			テスト結果
2	シリアル番号入力	製品シリアル番号の入	SerialNo(12345-67890)				OK
3							
4	データ出力	デジタル計測起動	データ1 VO1(5.5)	データ2 VO2(7.5)	データ3 VO3(2.5)	データ4 VO4(4.5)	OK
5							
6	データ入力	デジタル計測測定	データ1 VI1(5.5)	データ2 VI2(7.5)	データ3 VI3(2.5)	データ4 VI4(4.5)	OK
7							
8	テスト判定	デジタル計測データ判	データ1 V1(OK)	データ2 V2(OK)	データ3 V3(OK)	データ4 V4(OK)	OK
9							
10							
11							
12	テスト結果						OK
13							

判定結果

誰でも、現場でも、簡単に
表形式にプログラミングレスで検査構築

①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



事業の内容 b)産業用パソコン系

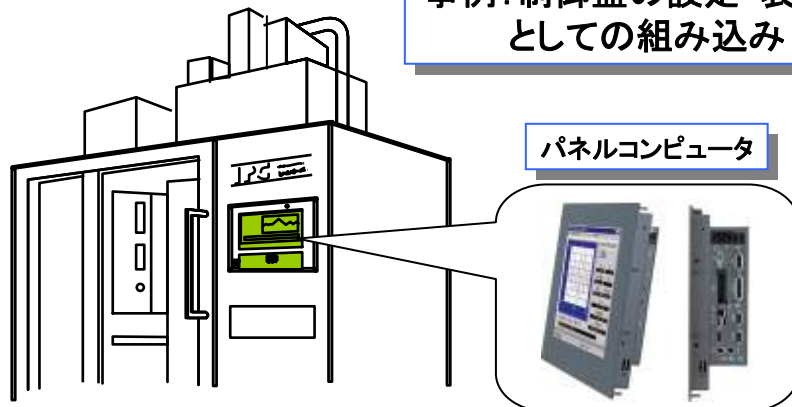


・SBC ・シャーシ ・バックプレーン

各種「産業用パソコン(パネルコンピュータ、ボックスコンピュータ)」と、その核になる「ボードパソコン(各種 Single Board Computer)」及び周辺機器を、高品質と長期供給保証で提供しています。

- ・パネルコンピュータ
- ・ボックスコンピュータ®
- ・フラットパネルディスプレイ
- ・シリコンディスクドライブ

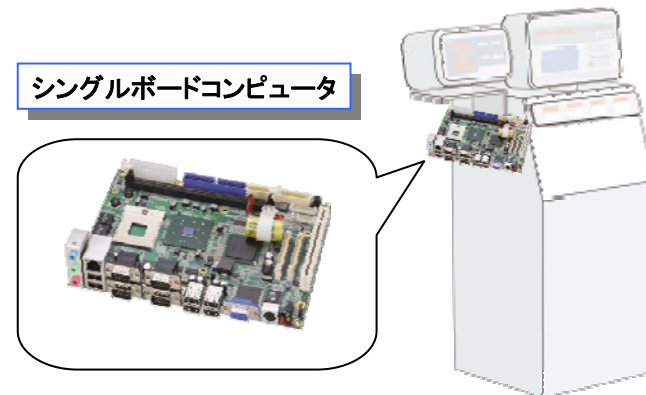
事例:制御盤の設定・表示器としての組み込み



パネルコンピュータ

事例:多機能端末装置への組み込み

シングルボードコンピュータ



* ボックスコンピュータは、当社の登録商標です。

事業の内容 b)産業用パソコン系

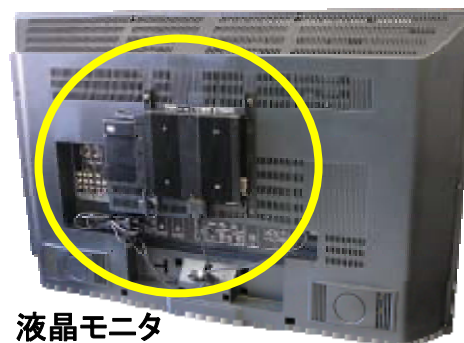
パソコンFAを提唱する中、“組み込みに適したパソコンを”の要望に応え、20年前から組み込み用パソコン(IPC)の概念を確立し、市場に提供しています。

デジタルサイネージにも最適：
超薄型ボックスコンピュータ：
BX900、BX950シリーズ



場所を選ばない・・・ 厚さ25mm～
動画再生・・・
高画質静止画再生・・・

★モニタへの取付け



液晶モニタ

機器の小型化、省スペース化に：
カスタム要望にも柔軟に対応：
BX100nシリーズ

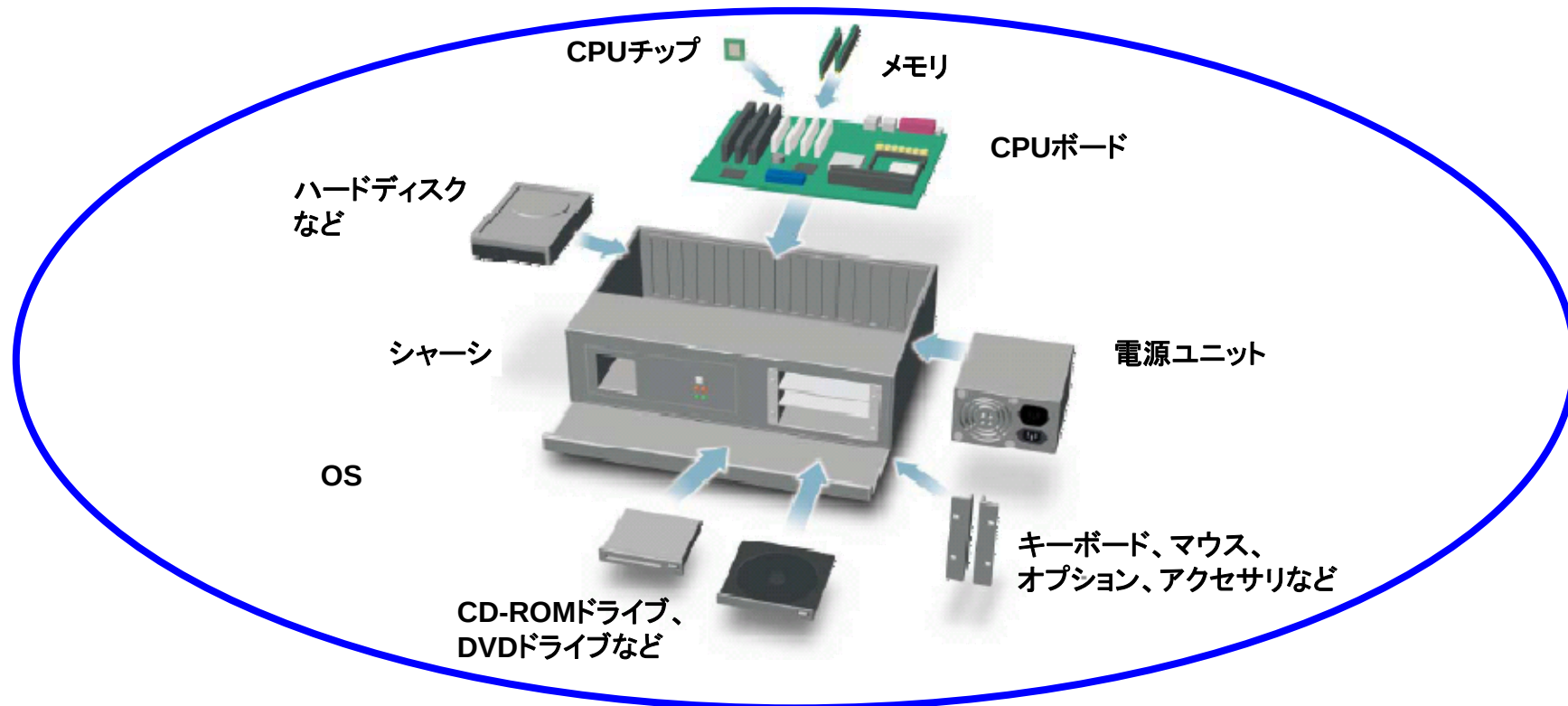


メンテナンスフリー・・・ ファンレス
埃に強い・・・ スリットレス
容易にカスタム対応可能な入出力機能

事業の内容 b)産業用パソコン系

「セットアップパソコン」

極めて高い耐久性や信頼性が求められる産業用途向けの組み込みパソコンを、顧客の要望に合わせた仕様にBTO(Build To Order)で提供しています。



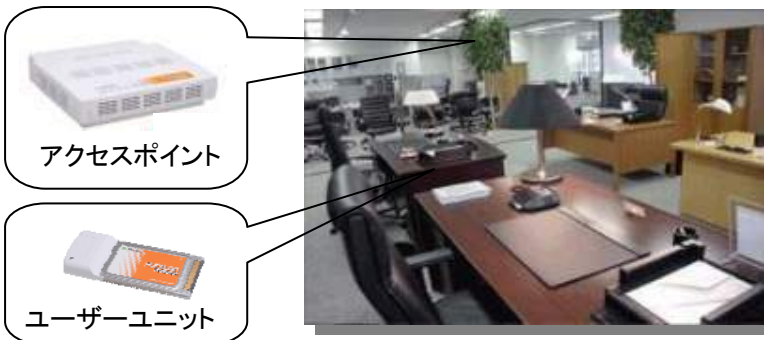
①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)



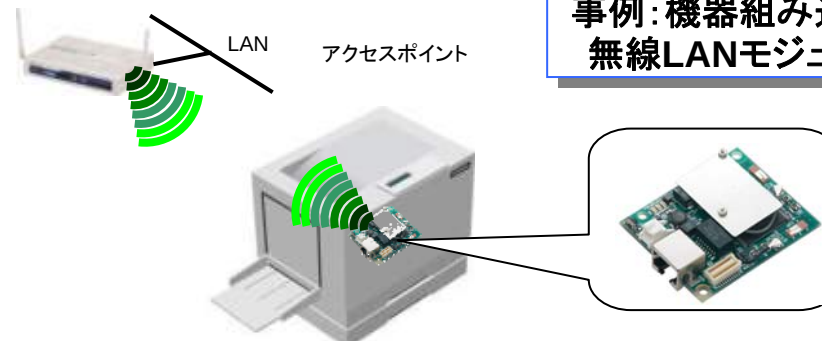
事業の内容 c)ネットワーク系

標準規格に加え、独自機能を付加して、セキュリティや管理機能を強化した、自社開発・自社生産の無線LAN機器を、オフィス用途／産業用途に提供。また、その技術をもとに、機器組み込み用無線LANモジュールも提供しています。

事例:オフィスの無線LAN

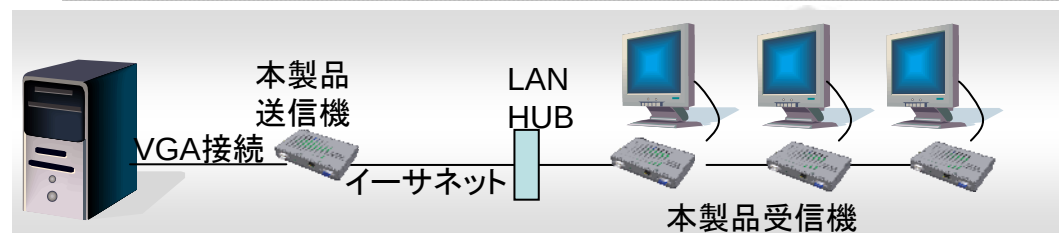


事例:機器組み込み用無線LANモジュール



オフィスの無線LAN化以外にも
病院における電子カルテシステム／看護支援システムの無線化
流通センター、大規模店舗における受入・検品、POSの無線化
LAN対応機器の無線LAN化 など

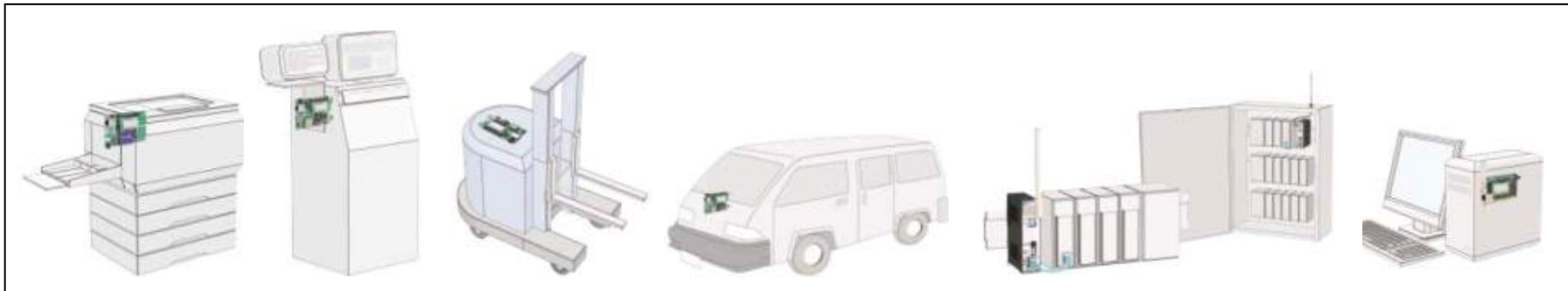
Flex Net Viewer
イーサネット技術を活用した
画像送信商品



事業の内容 c)ネットワーク系

産業向けに特化した無線LAN製品を手がけ、豊富な実績があります。

- ハード／ソフトの独自開発・独自生産により、きめ細かなサポート、サービスを実現。 2009年、高速版最新規格 IEEE802.11n 対応製品発売
- 大手ネットワーク システムインテグレータ各社に取り扱いいただき、オフィス、病院、学校等に導入多数。機能、信頼性、管理ソフトなどで高い評価。
- 豊富な経験を基に、有線LANを無線化する機器組み込み用モジュールを開発。量産機器への組み込み需要が活発化。



①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)

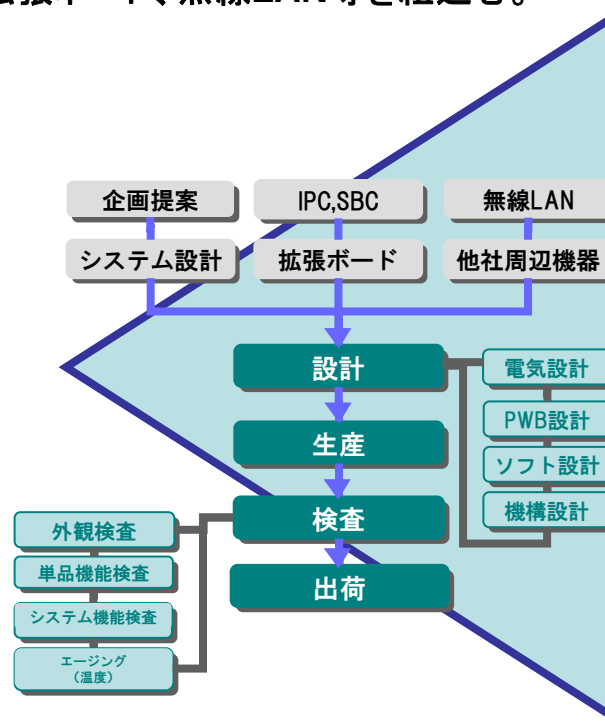


事業の内容 d)システム機器

事業内容

コンテック製品を組み込んだ、KIOSK端末や制御ユニットなどの受託開発・製造・設置・メンテナンスを行います。

産業用パソコン、シングルボードコンピュータ、オペレーティングシステム、ドライバーソフト、各種拡張ボード、無線LAN等を組込む。

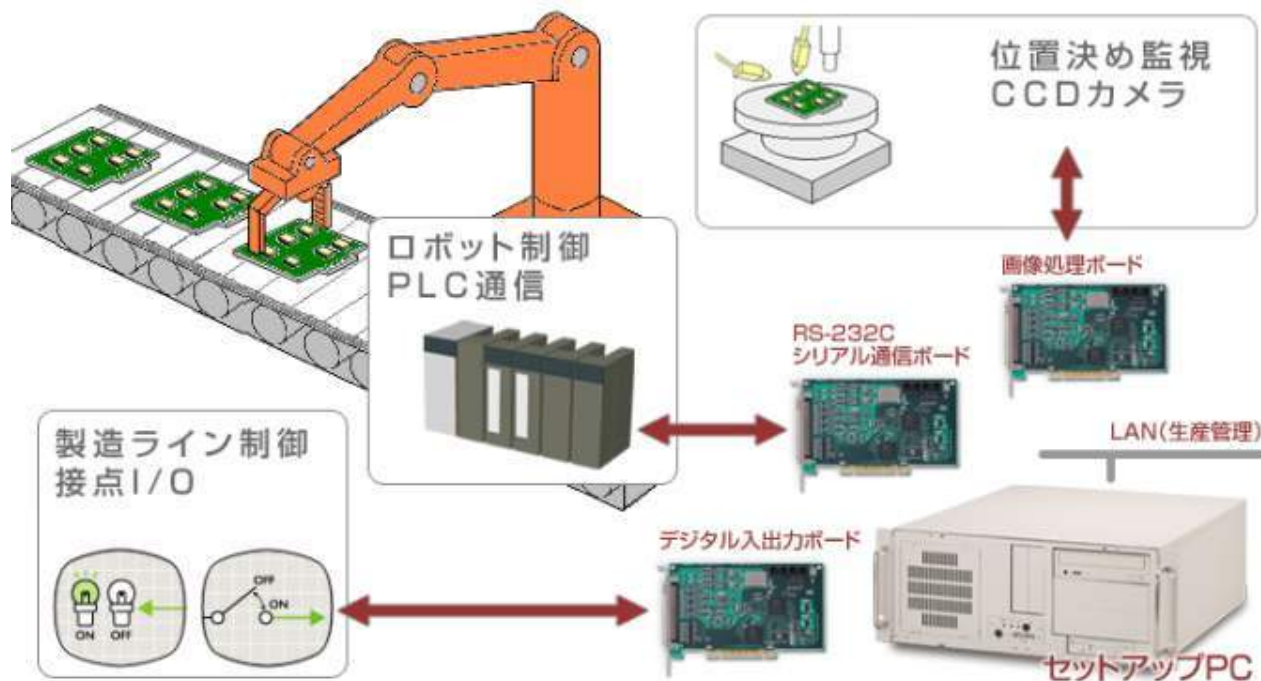


①デバイス&コンポーネント事業 (D&C事業)

事業の内容 : 客先設備でのシステム構築事例

客先設備の中で、当社製品(拡張ボード系機器、セットアップパソコン等)が、組み合わされて、システムを構成しています。

セットアップパソコンに ・画像処理ボード ・デジタル入出力ボード ・通信ボードをセット
→ モニタカメラから画像データをパソコンに取り込み
→ パソコンで位置ズレ情報を解析
→ ロボットコントローラ、ラインコントローラに位置制御情報を出力
→ 位置決め完了にて、ロボットで自動組み立てを行っている……………事例。



②ソリューション&サービス事業 (S&S事業)



事業の内容 a)システム系

当社設立時から手がけた国内全ての自動車メーカーに対する自動塗装機制御システムの実績をベースに、近年は各工場の生産管理システムインテグレーションも手がけています。

生産管理システム



- ・生産指示 / 実績収集トータルシステム
- ・トレーサビリティ支援システム
- ・Web情報配信システム

自動塗装機制御システム



- ・Monitoring Package (Paint Pro)
- ・ロボット、自動機制御

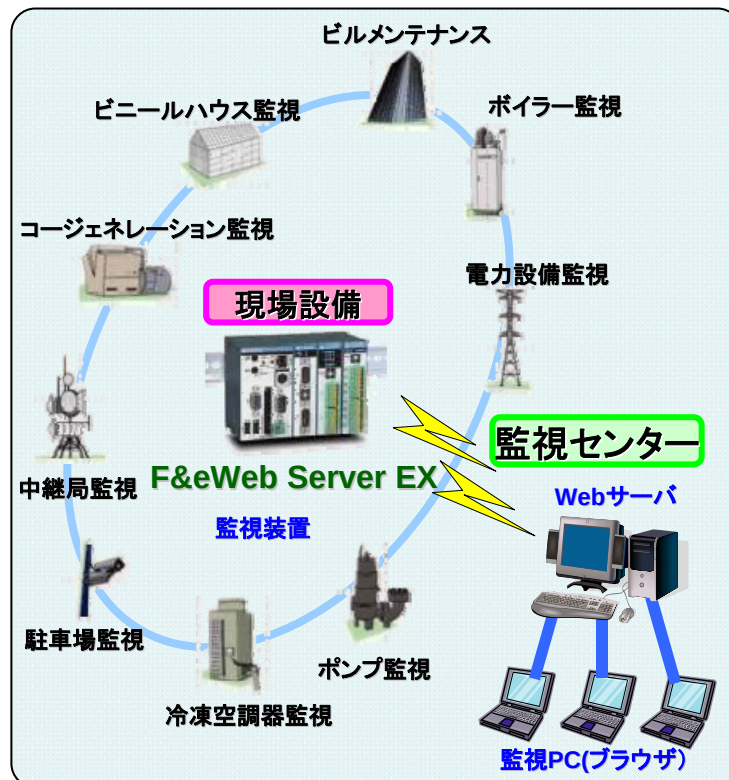
②ソリューション&サービス事業 (S&S事業)



事業の内容 b)ソリューション系

遠隔監視用サーバ／パッケージ製品を基軸に、各種遠隔監視ソリューションを受託制作しています。

遠隔監視システム



ソーラーパネルメーカー／設置業者とのタイアップにより、太陽光発電のデータ収集・表示・管理システムを提供しています。

太陽光発電データ計測・表示システム



③EMS事業 (Electronic Manufacturing Service事業)



事業の内容

生産子会社
株式会社コンテック・イーエムエスに
おいて、当社製品の生産を行うと同
時に、主に株式会社ダイフク
(親会社)向けの制御用電子機器・装
置・ハーネスを受託製造しています。

外販EMS事業の展開
多品種・微量生産に対応できます。

コンベヤ制御盤の制作風景



物流装置
周辺コントローラ



自動倉庫周辺
ユニットコントローラ



ローラーコンベヤ
電源接続ユニット

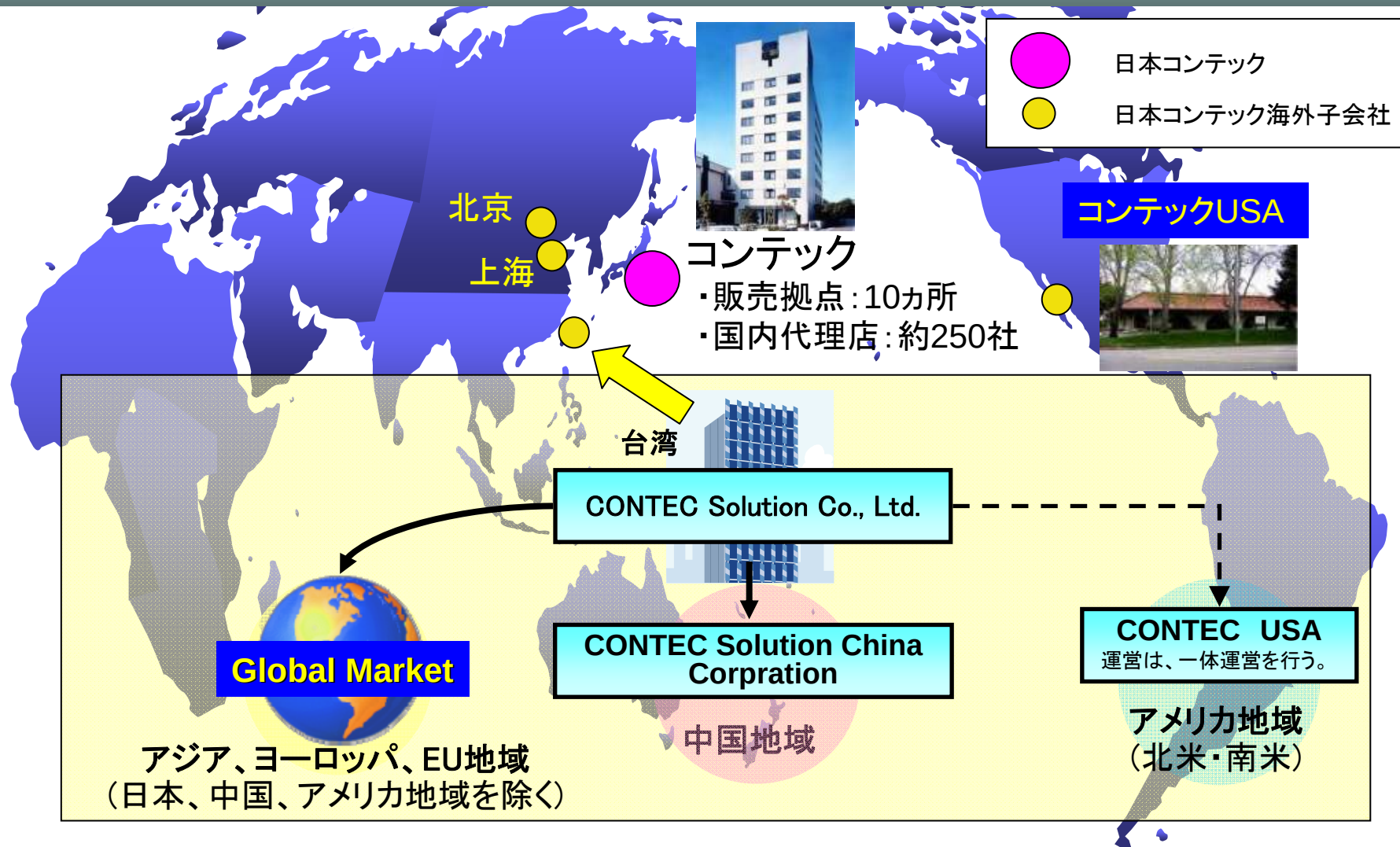


自動倉庫クレーンの
地上制御盤



II. 2. 販売体制

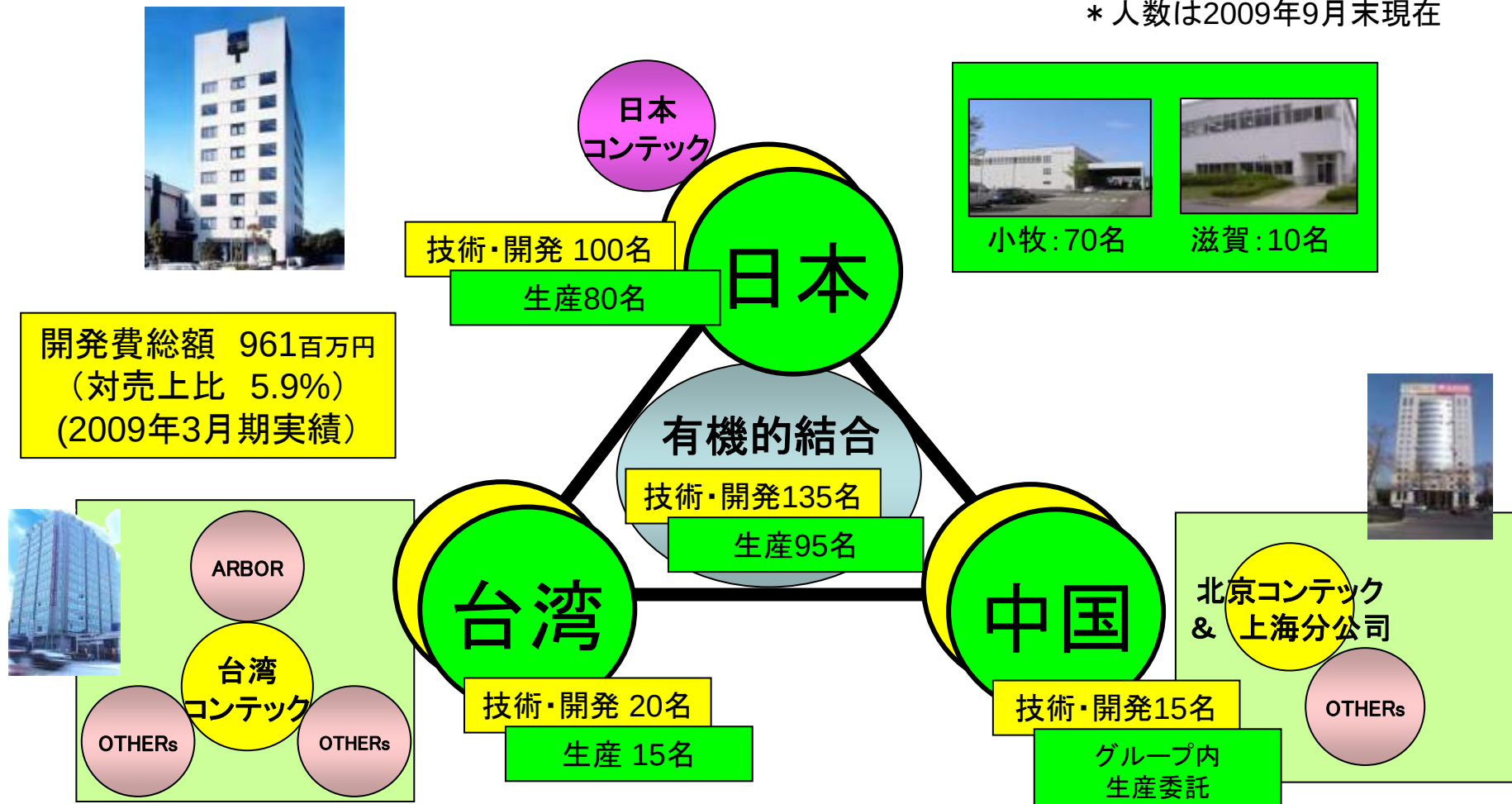
海外販売統括の合併会社 CONTEC Solution Co., Ltd.
(台湾)を中核に海外事業の拡大を図る。



Ⅱ. 3. 開発・生産体制

日本・台湾・中国の3極開発体制の強化による
Global開発・生産の推進する。

* 人数は2009年9月末現在



Ⅱ. 4. 品質・環境・情報への取り組み

品質

ISO9001



ISO 9001:2000, JIS Q 9001:2000
Approval Certificate No: YKA0937904
認証取得事業所:
コンテック、コンテック・イーエムエス

1995年4月
認証取得

情報

プライバシーマーク



2005年5月
認証取得

環境

ISO14001



ISO 14001:2004, JIS Q 14001:2004
Approval Certificate No: YKA0773041
認証取得事業所:
コンテック本社、コンテック・イーエムエス

2002年6月
認証取得

鉛フリー化／RoHS指令



2004年11月から
順次対応